

## 活動報告書

ボランティア専門家 小坂橋 けい子

2012年1月7日から2月12日まで、バタンバンにある KnK カンボジアにおいてボランティア専門家として活動を行いました。KnK カンボジアのプログラムの一つである、収入創出活動(IGA)に参加し、シルクや裁縫のワークショップの製品の品質向上を手伝いました。私は主にバッグ製作のワークショップに参加し、講師及び IGA 参加者と仕事を進めていきました。

主に取り組んだのは、バッグの1.品質向上、及び2.デザイン向上です。

1.の品質向上に関しては、「丁寧に作ること」を心がけてもらうようにしました。

今回のボランティアの目標の一つに、日本で販売できる商品を作成することがありました。現地で作った作品が、カンボジアでは売れても日本では売ることができないと思われる理由の一つに、商品の縫製の違いが挙げられます。日本では、少しでも端に糸がはみ出していたりすると売れなくなってしまう。ところがカンボジアでは、市場やお店でもそのような商品がごく普通に売られていて、そのような環境では、現地の人々は丁寧に作るというところまで気を配ることができないのでは…と思いました。

細かいところまでに気を配られた商品を見たことがなければ、そのような商品を作ることのできないので、日本から持ってきたバッグを実際に参加者に見てもらい、どのような商品が日本で売れるのか、ということを感じてもらうことから始めました。活動を続けていく中で、ミシンで縫う際にも丁寧に、落ち着いて作業をする姿が増えてきており、参加者に少しは伝わったと思います。「なんとなく縫えていればよい」から、「細かいところまで丁寧に作られた商品を作る」ところまで、参加者の意識が変化することを願っています。

また、2.デザイン向上に関しても同じことが言えますが、現地で売れるものと日本及び海外で売れるものはデザインも大きく異なります。カンボジアへの海外観光客も増えてきていますが、参加者自体の日常生活には、海外のファッションや文化を感じることができる機会は少ないのではないかと感じたので、まずは日本で売れるものを知ってもらおうと考えました。

バッグのデザインを行うのは初めてでしたが、シエムリアップのシルク工房やショップを巡ったりする中で、いくつかアイデアが浮かび、最終的には約10種類程度のデザインが出来上がりました。

頭の中で出来上がったデザインをスケッチブックに描き出し、それを元に講師と参加者にバッグを作ってもらいました。お互いジェスチャーを使ってのコミュニケーションが多かったのですが、幾度かの修正を経て、最終的には思い描いていた通りのバッグに仕上がりました。今回製作した以外にもいくつかデザインを描き、スケッチブックを渡してきたので、今後もその中からいくつか製作してもらえればと思います。

今回の5週間の滞在はあっという間で、予定していたことの全てができたわけではないのが悔やまれます。その中の一つに、シルクの参加者たちとワークショップを持つ時間が取れなかったことがあげられます。今回私がデザインしたバッグの多くは、市場等で購入したシルクを用いました。バタンバンでは良い色のシルクが手に入らないので、今回シエムリアップ及びプノンペンへの買い出しでたくさんの色のシルクを購入してきました。現地のシルクチームが作っていない色味を多数購入したので、今回バッグ製作に使用した色に基づき、次回はシルクチームにその色に染めてもらえたらと思います。

今回のボランティアを通じて、私自身 現地の子どもたちから学ぶことも多く、本当にとっても有意義な5週間でした。  
どうもありがとうございました。